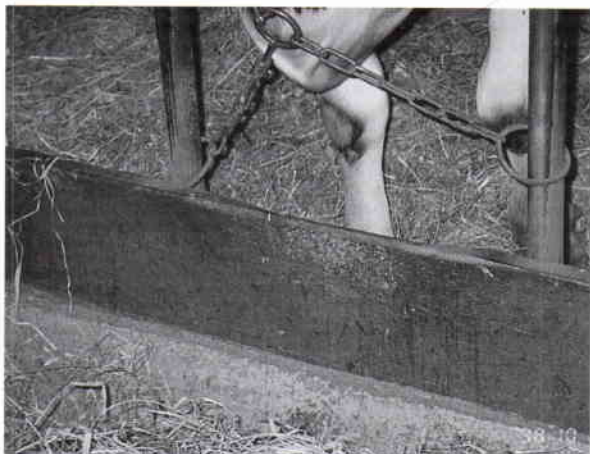


5. ちょっとした改善でも牛は快適です

スタンションを取り外しロープやチェーンで牛を繋留します。



左右支点方式 (No.1)



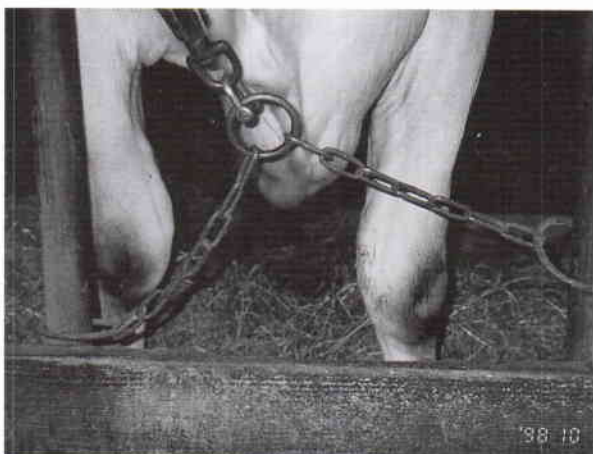
左右支点方式 (No.2)



上下支点方式 (チェーン)



上下支点方式 (ロープ)



牛とチェーンはこんな方法で繋がります。

V 飼 槽

いつでも、飼料を腹一杯食べられるようにすることが健康な牛づくりの第一歩です。

牛はいつもと違う飼料（臭いが強かったり、腐ったりなど）を嫌います。これらは第一胃内の調子を狂わすからです。

「我が家の牛は何でもよく食べる」と思う人は飼料が不足しているのかもしれませんが。

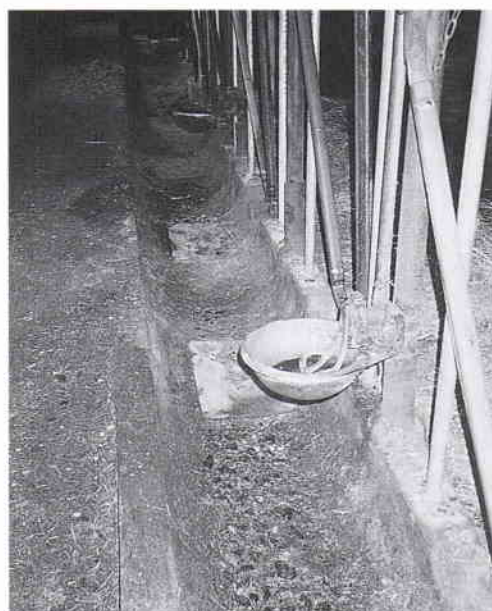
飼槽は飼料を直接置くので、飼槽の状態の良し悪しが飼料の風味に影響を与えます。飼槽をしっかりと管理することが大切です。

1 新築時、滑らかだった飼槽も老朽化により、痛んできます

(1) ステンレス板を利用



飼槽にステンレス板を貼りました。年月を経過して、ステンレス板の周りのコンクリートが老朽化し、凸凹してきました。



(2) タイルを利用



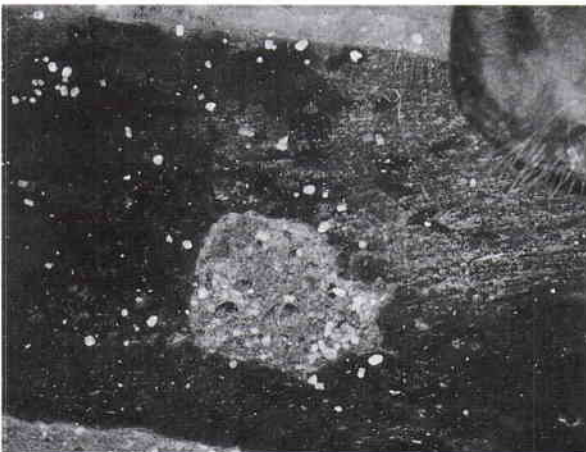
飼槽にタイルを貼りました。年月を経過して、タイルの取れたところが見えます。

(3) FRP

飼槽にFRPを貼りました



年月を経過して、端の方から痛んできています。飼槽の中心部は痛んでいないので、まだ大丈夫のように見えますが、端を持ち上げると、下には腐敗した飼料がありました。



年月を経過して、コーティングに穴が開いている飼槽がありました。



これは改善前の飼槽です。かなり、コーティングが痛んで不衛生になっていました。

2 疾病予防のために清掃はしっかり行います



飼槽の通路側の壁に飼料のこびりつきがありました。

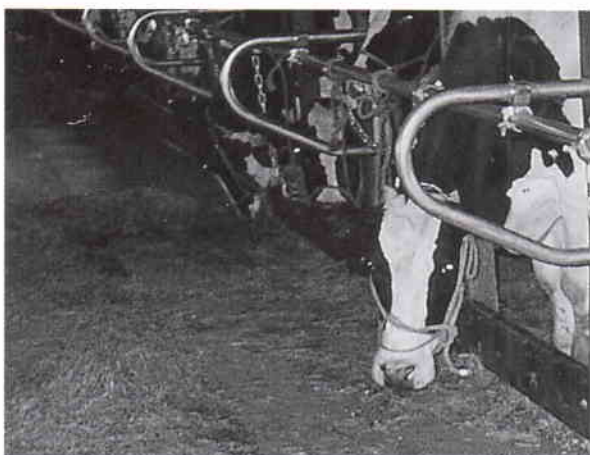


飼槽の端に排水口があります。掃除した飼料が残っていました。

3. 牛の口の届く所が飼槽です



飼槽にほとんど飼料が残っていないことがあります。掃除は楽ですが、牛は能力を発揮できません。



飼料は少し残っていますが、牛の口が届かない位置にあります。



飼槽と通路に段差があります。飼料は段差の外にあります。
段差を越して飼料を飼槽に戻します。



飼槽を越えて通路まで首が伸びています。
飼槽の摩耗もこの辺まで見られます。

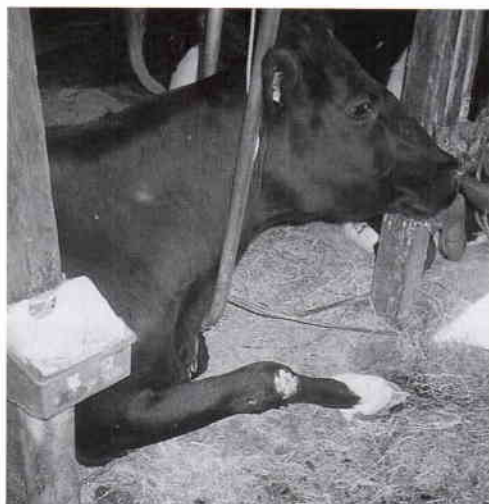


コーティングの幅を決めるところです。
牛の口の届いていた位置より広くコーティングします。ペンの示している位置は90cmです。

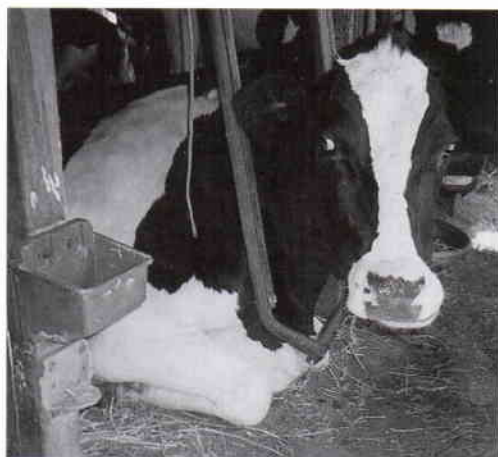
4. 飼槽に足が入ると、飼料が汚れます



左肢が飼槽に入っています。



右肢が飼槽に入っています。



おっと、この牛は仕切りの上に両肢を揃えています。



仕切りの上に両肢で立っています。



両肢が飼槽の上にあります。



左右の写真は同じ農家です。
仕切り板の未設置の飼槽です。きれいに肢が並んで出ています。



仕切り板が設置されています。肢を出している牛は見えません。

5. 飼槽を平らに改善しました

飼槽が箱状になっており、その壁の一部が壊れていました。飼槽の底面は凸凹していて、掃除がしにくいなど衛生的にも問題がありました。給与した飼料は毎回、飼槽の壁の外に押し出され、掃き寄せや清掃に苦労していました。

飼槽と通路を平らに改造し、飼槽部分はレジンコンクリートでコーティングしました。

飼槽の掃除や飼料の掃き寄せが楽になり、衛生的になりました。



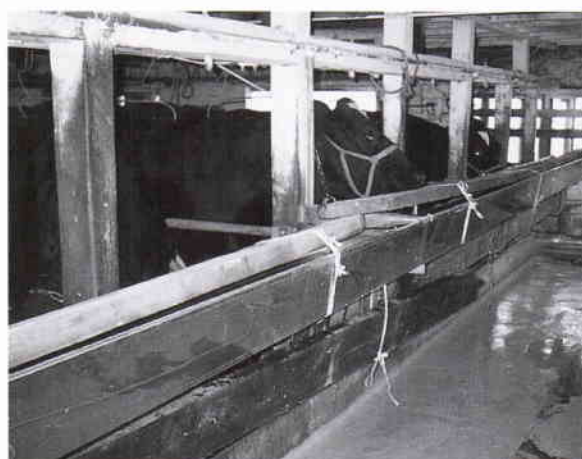
改善前の飼槽です。
サイレージの中に箱形の飼槽が見えます。



飼槽と通路を壊したところです。



改善後の飼槽です。平らになり、コーティングされ、滑らかです。



施工直後の写真です。
コーティングが乾くまで、飼槽が汚れないようにしています。

6. こんな給与方法もあります



サイレージ給餌車



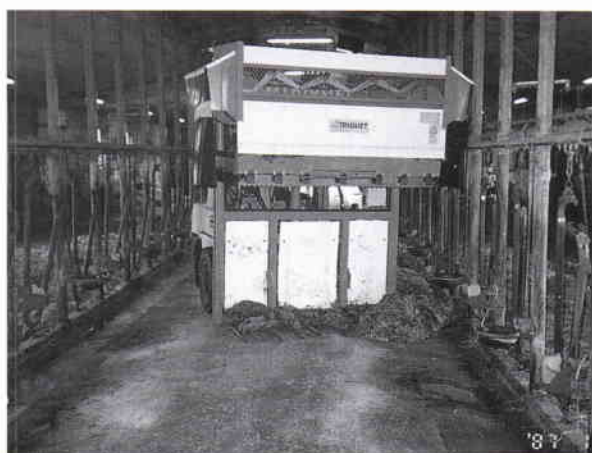
濃厚飼料自動給餌車



濃厚飼料自動給餌車



コンベア給餌機



給餌装置付きサイレージカッター



濃厚飼料自動給餌機